

月次レポート

第95号
2016年10月13日作成

ユニオンファンド

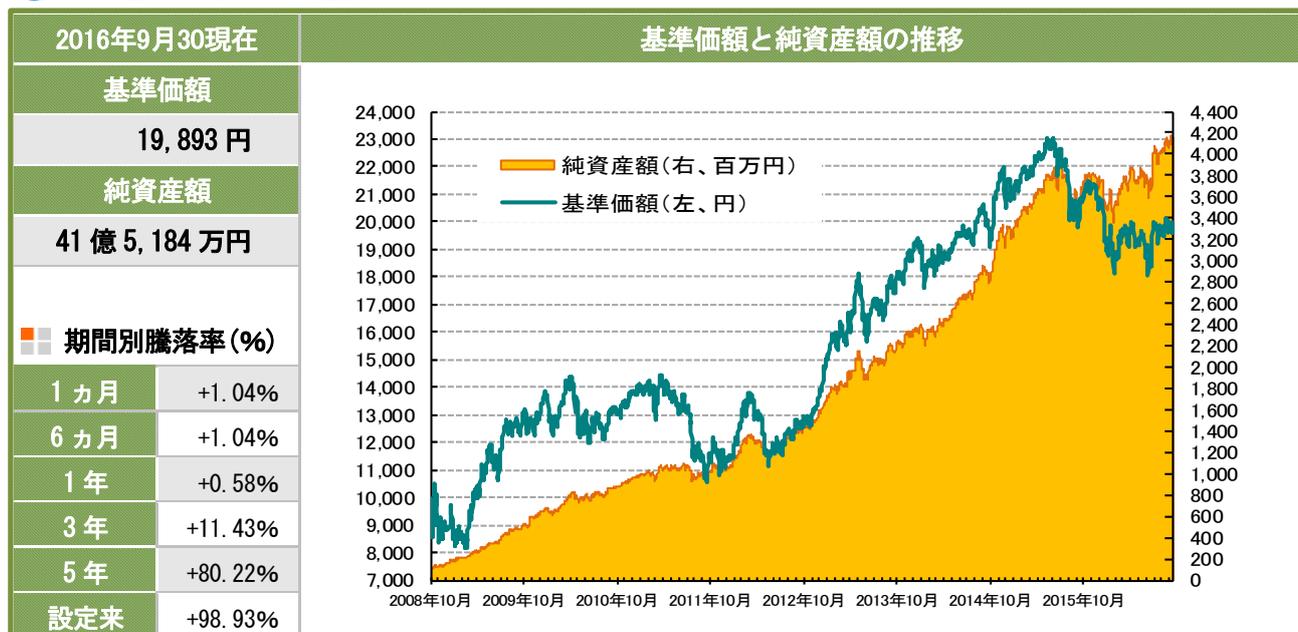
追加型投信／内外／株式
分配金再投資専用



「ユニオンファンド」の「月次レポート」(2016年10月13日作成)をお届けします。

運用状況のご報告

ユニオンファンド概況



* 複利年率 +9.04%

*「複利年率」とは設定から現在まで運用を行った結果、複利で換算した場合に何%でまわっていたかを表したものです。過去の実績値であって、将来の成績を約束するものではなく、また個々の受益者ごとの購入時期によって運用結果は異なります。

■ 組入れファンドの内訳 (9/30 現在)

ファンド名	主な投資先地域	組入比率
さわかみF	日本	7.5%
キャピタルF	欧米	13.7%
ハリスF	欧米	18.5%
コムジストF	新興国	38.1%
キャッシュ	—	22.2%

小数点第2位を四捨五入

ファンドマネージャー コメント

円高の影響を吸収し、基準価額は横ばいを確保

ユニオンファンドは去る9月30日に、第8期の決算を迎えました。期末の基準価額は19,893円でした。

振り返ればこの1年あまり、ユニオンファンドにとってかなり厳しい環境が続きました。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

まず、基準価額ですが、期初は 19,779 円でしたから、この 1 年の上昇率はわずか 0.6%にとどまりました。ユニオンファンドは、2015 年 5 月末に 23,014 円という過去最高値をつけていますが、そこから見ますと 13.6%の値下がりとなっています。

このような結果となりましたことは大変残念であり、満足できる運用成果ではないものの、ユニオンファンドの「よさ」や「強味」が発揮できた 1 年でもありました。といいますのは、為替市場で進んだ円高によって、外国株は円に換算しますと値下がりに終わっているからです。そうした難しい投資環境の中で何とか下落を免れたのは、ユニオンファンドの運用に当たって買ってきた考え方や行動が力を発揮したためと考えています。

■株価はプラス、しかし為替はマイナスの 1 年

まず、世界の株式市場ですが、毎度のことながら大きな上下変動はありましたものの、終わってみればプラスとなりました。主要国全体の株式市場の動きを示す MSCI の All country 指数で申しますと、現地通貨建ての株価は+12.5%と 2 桁の上昇でした。

ただ、為替市場が大きな逆風となりました。米ドル相場は、期初の 1 ドル 120 円程度から期末は 101 円程度へ、またユーロも同じく 134 円台から 113 円台へと大幅な値下がり（円の値上がり）となりました。

この結果、世界の株価を円に換算しますと、さきほどの All country 指数で 6.0%のマイナスとなっています。日本から投資する私たちにとって、円高が株価の上昇を帳消しにしてしまった年、と言えるでしょう。

ちなみに日本株は、TOPIX（東証株価指数）が小幅ながら 2.3%下落しています。

■株価（円建て）が値下がりしても基準価額が下がらなかった理由

投資先の株式市場（円建て）が下落する中、ユニオンファンドは小幅ながらもプラスを確保できましたが、その理由は大きく分けて二つあると見ています。

第 1 は、組み入れている 4 つのファンドの健闘です。

ユニオンファンドは、ファンドに投資することで日本を含む世界の株式に投資していますが、4 本のファンドは、ともに独自の調査力を駆使し、投資する企業を厳しく選別しています。

終わった第 8 期は、そうした労力が実を結び、それぞれの投資先である市場の動きを 4 本のファンドすべてが上回ってくれました。

また、4 本のうち、さわかみ F とコムジェスト F は、日本株と新興国株（円換算）がそれぞれマイナスで終わったにもかかわらず、小幅ながらプラスの運用成果を残しました。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

第2の理由は、少し手前味噌ではありますが、投資の割合（組入比率といいます）の変更が結構うまくいったことを挙げていいと思います。私の前任者である坂爪を中心に考え抜いた投資戦略が功を奏したと言えます。

具体的には、6月下旬に英国が国民投票でEU離脱を決め、相場が混乱を極めた際に、それまで蓄えておいた現金のほぼ半分を投資に振り向けました。相場の下落前には現金の割合が多く、つまり組入比率が6割程度と低かったために、市況の悪化による基準価額の下落をかなり抑えることができたことに加えて、下落局面で買い付けを一気に増やして組入比率を高めたことよって、その後の株価反発を大いに享受できたわけです。これが年間での運用成績の押し上げに寄与しました。

■さらに磨きをかけていきます

ユニオンファンドを購入されて日の浅い方は、「なかなか儲からんもんだなあ」と思っておられるかもしれません。過去1年半は、確かにユニオンファンドにとっては厳しい時期でした。

でも、明るい兆しも見え始めています。

先ほど、コムジェストFがこの1年で値上がりしたと申しました。その一因として、新興国の株価と為替相場が長い低迷を脱してきたことが挙げられます。新興国株指数は、現地通貨建てで15%値上がりました。これは、好調と言われた米国株の上昇率に並ぶものです。

また、為替市場でも、多くの新興国通貨が最悪期を抜け出したように見えます。代表的なのはブラジルレアルで、これまで大きく売られてきた反動もあり、この1年では円に対しても値上がりしたほどです。

こうした市場の明るい変化をさらに生かすべく、7月から9月にかけて、ユニオンファンドが組み入れている4つのファンドの運用会社を訪問し、その後もヒアリングを続けてきました。各社の運用の基本的な考え方や実際の銘柄選択の方法、ここまでの成果、今後の運用についてなど、かなり時間をかけて突っ込んだ議論をすることができました。改めて4社の優れた運用力と今後の見方などを確認できましたので、来月以降、機会をみて順次ご紹介していきたいと思っています。

さて現在です。9月末時点で、ユニオンファンドは投資額のうち半分ほどを新興国に振り向けています。これは、株式、為替双方に吹く最近の追い風が、ユニオンファンドにもプラスになると予想しているからです。

一方、世界にはまだ様々な不確定、不透明、不穏な要素もあります。おそらく、過去1年と同じように、これからも上下に揺れ続けることでしょう。そうした時の備えとして、皆様からお預かりしている資金の4分の1ほどは現金で保有しています。株価や為替の調子が悪くなった時を中心に、将来を見据えた投資を行っていく考えです。

最後になりますが、過去1年間の運用に関するより詳しい内容は、11月中旬に発送予定の交付運用報告書に記載します。今後の投資にお役立ていただければ幸いです。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 市場動向

世界の株式市場は、利上げの有無や時期を巡る憶測や、景気の先行きへの不安感から総じて小動きでした。ユニオンファンドの基準価額に反映する日付で見ますと、ほぼ横ばいでした。

米国株は、史上最高値圏での膠着状態にとどまり、小幅に値下がりました。

日本では、日銀による新たな金融政策を好感する動きがありました。ただ、その後は円が反発気味となったこともあり、株価の上昇率は縮小、TOPIXは小幅な値上がりで終わりました。

新興国は、株価も為替もやや強めの動きとなりました。OPECが予想外の減産に傾いたことで原油価格が反発したことや、米国の利上げ先送りが好感されました。

欧州株は、ドイツの銀行経営を巡る不安感などからやや弱めで推移しましたが、月末に向けて株価は戻し、ほぼトントンで終わりました。

円の対ドル相場は100円突破をうかがう動きが続き、月間では若干の円高でした。日銀の金融政策への期待が後退する一方、米国の利上げは来年も緩やかとの見方が広がったことなどが背景です。

■ 基準価額

欧米株式を組み入れているファンドには小幅ながら円高がマイナスに働きました。しかしいずれも市場を上回るパフォーマンスを達成したことから、「さわかみF」を含め全ファンドが値上がりしました。このため「ユニオンファンド」の基準価額は前月末比+1.0%となりました。組入比率が最大のコムジェストFは2.2%値上がりし、大きく貢献しました。

■ 売買、組入比率

9月は8月に続き買い付けを見送りました。定期定額購入による資金流入があったことから、9月末の組入比率は8月末の78.4%から若干低下し、77.8%となりました。

■ 今後の運用方針

● 今後の市況見通し

世界経済は力強さを欠くものの、緩やかな成長が続き、企業業績も拡大していくと思われます。金融政策は緩和的で株価の下支えとなっています。米国は利上げを行う可能性が高いですが、物価がまずまず安定しており、来年の利上げピッチも緩やかと予想されます。経済を大きく冷やす可能性は小さいでしょう。このため、株価上昇傾向は今後も続くと予想しています。ただ、ごく目先は、米国大統領選や、一部の欧州銀行の経営問題、英国のEU離脱の推移、中国の債務膨張など、不透明な要素も残っていることから、一本調子の株価上昇は期待しにくいと見ています。

● 組入比率

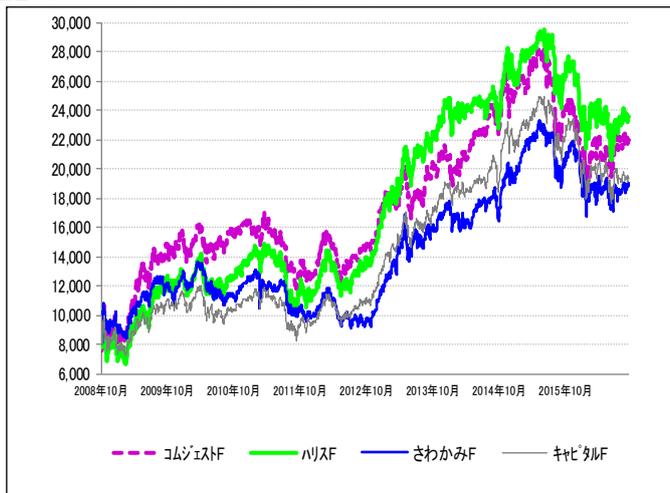
6月から7月にかけて組入比率を大きく引き上げましたが、当面は様子を見る時期と考えています。特にごく目先は懸念要素が重なりそうなため、一旦やや慎重な姿勢をとることとし、全体の組入比率の目標を75%に引き下げます。ただ、懸念が現実となって市況が大きく悪化する場面があれば、組入比率は高める方針です。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

「ユニオンファンド概況」補足コメント

■ 図1 組入ファンドの基準価額推移(2008.10.20=10,000)

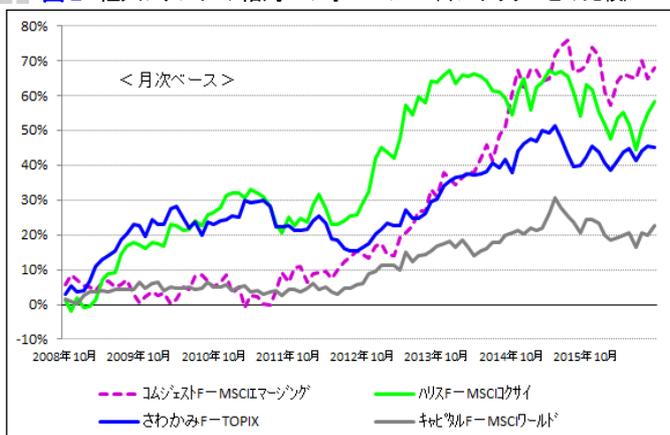


>> 図1 基準価額推移

9月の騰落率は次の通り。

- 「コムジェストF」 : +2.2%
- 「さわかみF」 : +1.5%
- 「ハリスF」 : +0.8%
- 「キャピタルF」 : +0.2%

■ 図2 組入ファンドの相対パフォーマンス(インデックスとの比較)

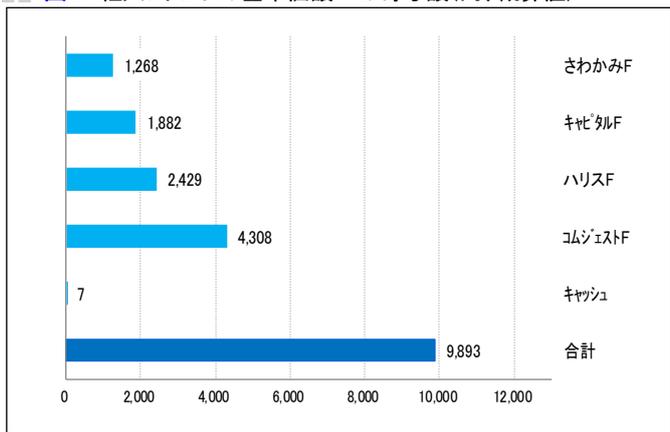


>> 図2 相対パフォーマンス(設定来)

4ファンドともインデックスを上回るパフォーマンス。

- 「コムジェストF」… 約68%凌駕
- 「ハリスF」…………… 約58%凌駕
- 「さわかみF」…………… 約45%凌駕
- 「キャピタルF」……… 約23%凌駕

■ 図3 組入ファンドの基準価額への寄与額(円、概算値)



>> 図3 寄与額

9月末の基準価額が19,893円で、評価益は9,893円。

累積寄与額内訳(9月末まで)は図3の通り。



運用責任者(ファンドマネージャー)
久保田 徹郎

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

組入れ4ファンドの状況

■ さわかみF (さわかみファンド)

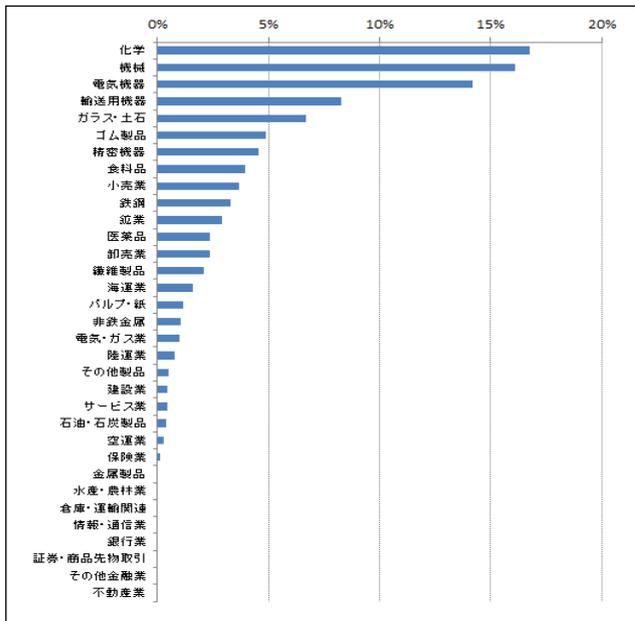
■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種: 東証 33 業種

2016 年 9 月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	ブリヂストン	4.2%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位
2	日本電産	3.6%	日本	電気機器	精密モーター世界首位
3	トヨタ自動車	3.5%	日本	輸送用機器	自動車世界大手
4	花王	3.3%	日本	化学	トイレタリー首位
5	ダイキン工業	3.2%	日本	機械	エアコン世界首位
6	TOTO	2.9%	日本	ガラス・土石	衛生陶器首位
7	浜松ホトクス	2.6%	日本	電気機器	光検出器の世界的企業
8	国際石油開発帝石	2.5%	日本	鉱業	石油メジャー
9	信越化学工業	2.2%	日本	化学	塩ビ・シリコンウエハー世界大手
10	テルモ	2.2%	日本	精密機器	医療機器(カテーテル)
上位 10 銘柄		30.1%			
その他 88 銘柄		55.3%			
キャッシュ		14.6%			

■ 業種別構成比



業種: 東証 33 業種

構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆業種のメリハリを効かせることで個性あるポートフォリオを作り上げている。
- ◆ポートフォリオの特徴
 - (1) 「化学」「機械」「電気機器」「輸送用機器」「ガラス・土石」「ゴム製品」「精密機器」など“ものづくり”, “輸出型” 企業の比率大。
 - (2) “内需型” 企業では、「食料品」「小売」「医薬品」といった“生活関連” が中心で、「銀行」「通信」「不動産」「倉庫」などにはほとんど投資していない。
- ◆9 月は微調整にとどめており、ほとんど変化なし。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
 ◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
 ◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ キャピタルF (キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド(LUX)クラスZ)

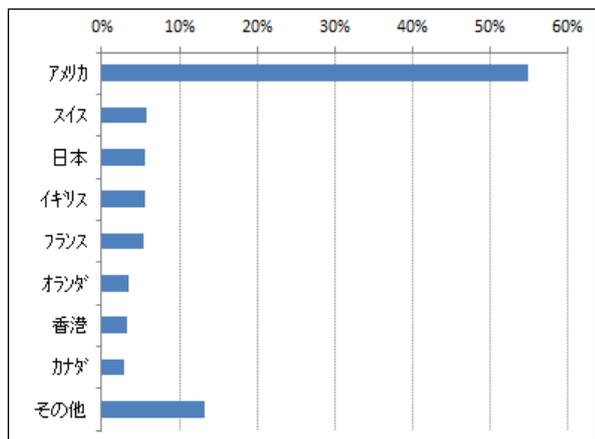
■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種: MSCI 世界産業分類基準の 11 セクター

2016 年 8 月末現在

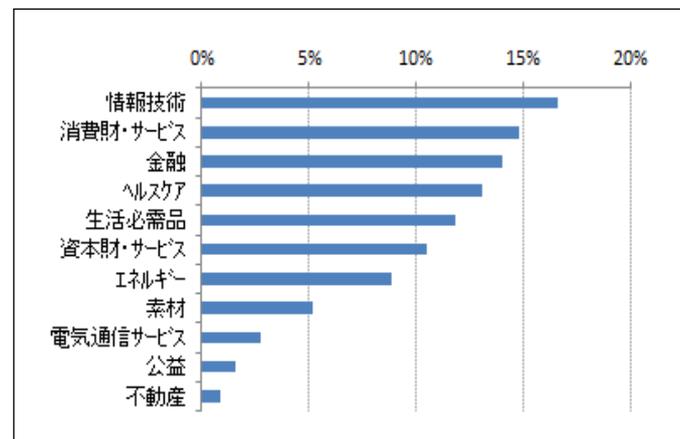
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	Microsoft	2.2%	アメリカ	情報技術	世界最大のコンピューター・ソフト
2	Alphabet	2.2%	アメリカ	情報技術	グーグルの持ち株会社
3	Novo Nordisk	2.1%	デンマーク	ヘルスケア	医薬品バイオ
4	AIA	2.0%	香港	金融	生保・金融サービス
5	ASML	2.0%	オランダ	情報技術	半導体製造装置メーカー
6	Visa	2.0%	アメリカ	情報技術	世界有数のクレジットカード
7	TSMC	2.0%	台湾	情報技術	半導体メーカー
8	CME	1.8%	アメリカ	金融	先物等の国際的取引所
9	Amazon	1.7%	アメリカ	消費財・サービス	ネット店舗運営
10	Incyte	1.6%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品バイオ
上位 10 銘柄		19.6%			
その他 158 銘柄		76.6%			
キャッシュ		3.8%			

■ 国別構成比



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比



業種: MSCI 世界産業分類基準の 11 セクター

構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 日本を含む先進国に幅広く投資 (170 銘柄程度)。
- ◆ 平均 30 年の経験を持つ 4 人のファンドマネージャーと 30 人ほどからなる調査チームが、個々の確信に基づいて銘柄を自由かつ柔軟に選択する体制をとる。
この結果、迅速な対応が可能となる一方、ポートフォリオは適度に分散され、過去 30 年では市場を年率で平均 2% 程度上回る成績を収めている。
- ◆ 業種ウェイトは市場平均に近いが、「金融」は恒常的に比率を抑え気味。
- ◆ 半年前に比べ、「素材」や「エネルギー」が上昇し、「資本財・サービス」などが低下。

◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

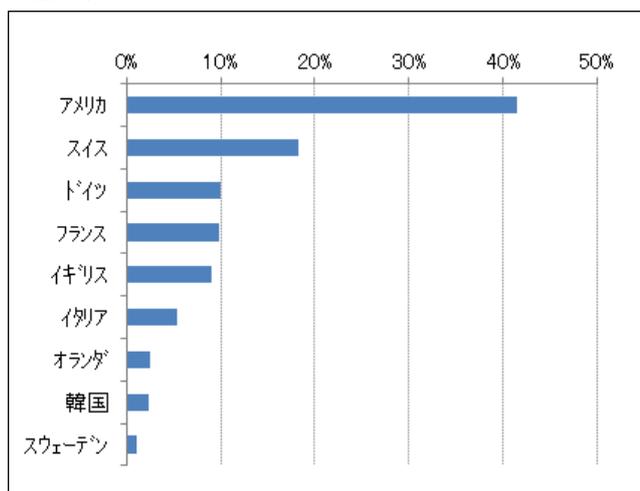
◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目録見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等 (マザーファンド)

業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 産業グループ 2016 年 8 月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	CNH INDUSTRIAL	5.2%	イタリア	資本財	農機・建機メーカー
2	GLENCORE	5.0%	イギリス	素材	鉱山開発・商品取引
3	BNP PARIBAS	5.0%	フランス	銀行	フランス大手銀行
4	DAIMLER	5.0%	ドイツ	自動車・自動車部品	世界自動車大手
5	CREDIT SUISSE	4.8%	スイス	各種金融	スイス大手銀行
6	ALLIANZ	4.7%	ドイツ	保険	総合保険大手
7	LAFARGEHOLCIM	4.4%	スイス	素材	セメント世界一
8	AIG	4.3%	アメリカ	保険	総合保険大手
9	GENERAL MOTORS	4.1%	アメリカ	自動車・自動車部品	米ビッグ 3 の一角
10	JULIUS BAER	3.8%	スイス	各種金融	プライベートバンク
	上位 10 銘柄	46.4%			
	その他 24 銘柄	50.5%			
	キャッシュ	3.1%			

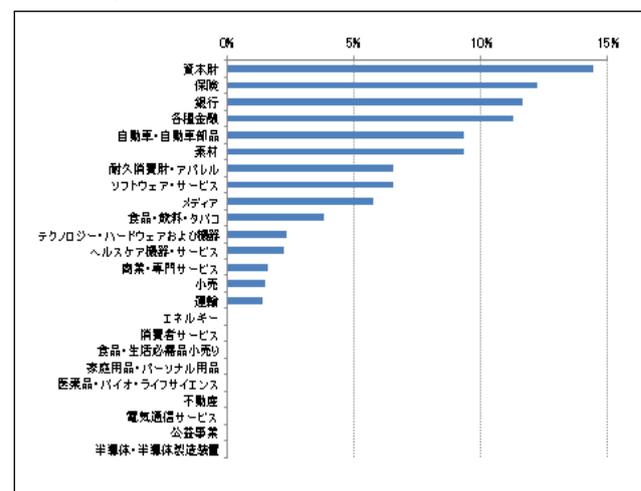
■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)

※2016 年 9 月末現在



業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 産業グループ
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 割安銘柄に絞り込んで運用するファンド。日本を除く世界各国に投資。
- ◆ 「金融」が最大の投資セクター(組入比率は現在約 3 割強)。業績好調なカード会社や資産運用会社などの比率を高めている。
- ◆ 「金融」以外では、景気敏感セクターの「資本財」「自動車関連」「素材」などのウェイトが高めとなっている。
- ◆ ここ半年は、「メディア」「ヘルスケア機器」「各種金融」などを引き上げ、「半導体」「素材」「テクノロジー・ハードウェアおよび機器」「エネルギー」などを引き下げている。

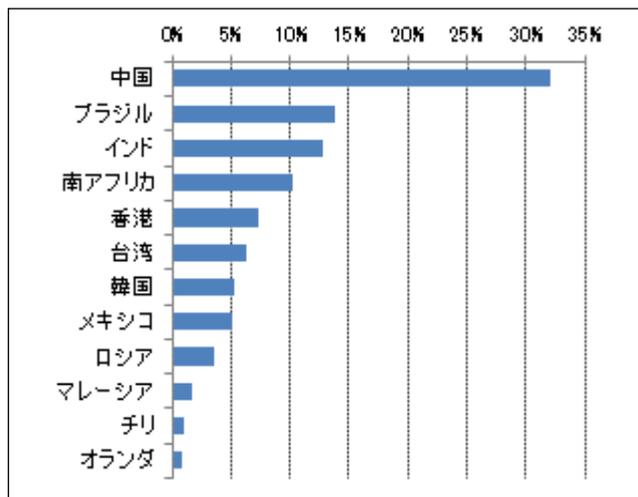
◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託の受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等 (マザーファンド)

業種:MSCI 世界産業分類基準の 11 セクター 2016 年 9 月末現在

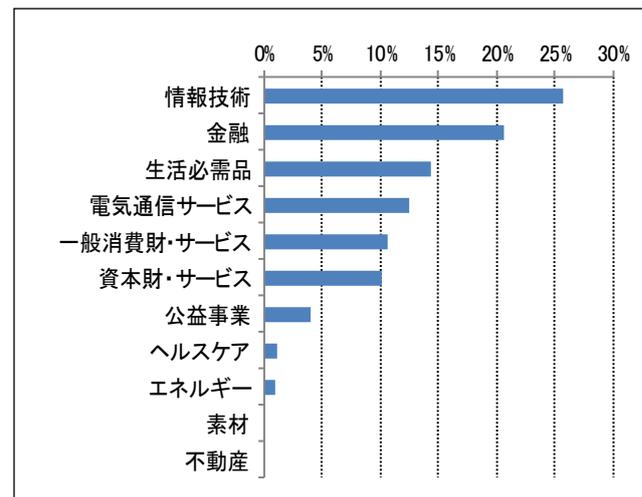
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR	6.2%	台湾	情報技術	半導体メーカー
2	NETEASE ADR	5.1%	中国	情報技術	オンラインゲーム
3	CHINA LIFE	4.6%	中国	金融	生保
4	CHINA MOBILE	4.6%	中国	電気通信サービス	携帯電話
5	POWER GRID OF INDIA	3.9%	インド	公益事業	電力関連(送電網)
6	FOMENTO ECONOMICO	3.2%	メキシコ	生活必需品	飲料、コンビニチェーン
7	INFOSYS ADR	3.1%	インド	情報技術	ITソフト総合サービス
8	SAMSUNG LIFE	3.0%	韓国	金融	生保
9	MTN GROUP	3.0%	南アフリカ	電気通信サービス	携帯電話
10	CKH	2.9%	香港	資本財・サービス	不動産・保険等の複合企業
	上位 10 銘柄	39.4%			
	その他 32 銘柄	57.6%			
	キャッシュ	3.0%			

■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

■ 業種別構成比 (マザーファンド)



業種：MSCI 世界産業分類基準の 11 セクター
構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

※ 前回 (第 94 号) のレポートにおいて誤記載がありましたので、下記のとおり訂正させていただきます。
【誤】 公益 0% 【正】 素材 0%

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆質の高い新興国企業(新興国売上比率の高い先進国企業含む)のうち、類まれな事業基盤を有し長期的に高成長が期待できる質の高い企業を 40 社程度に絞り込んで運用している。
- ◆具体的には、①参入障壁が高く長期的な収益見通しが立て易い企業、②財務が健全で利益率が高い企業、③適正な株価水準にある企業 など。
- ◆新興国の市場では「資源・エネルギー」や「金融」のウェイトが概して高い(BRICs 諸国では概ね 5~6 割程度)。しかし当ファンドは「エネルギー」や「素材」の比率が低く、「情報技術」「通信」などの比率が高い。このため新興国市場が資源・原油価格高で上昇する時には追従できないこともあるが、長期的な相対パフォーマンスは銘柄選択の効果によって極めて良好である。
- ◆「生活必需品」のほか「一般消費財サービス」を高め、「金融」と「電気通信サービス」は引き下げ気味となっている。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

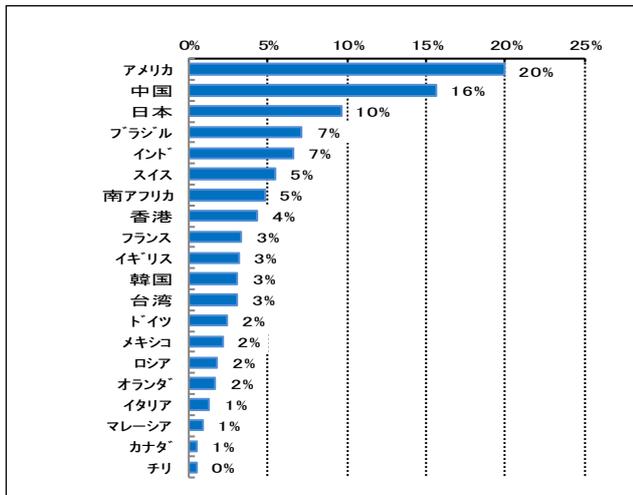
ユニオンファンド(組入4ファンド トータル)の状況

■株式組入上位 30 銘柄等

2016年8月末現在

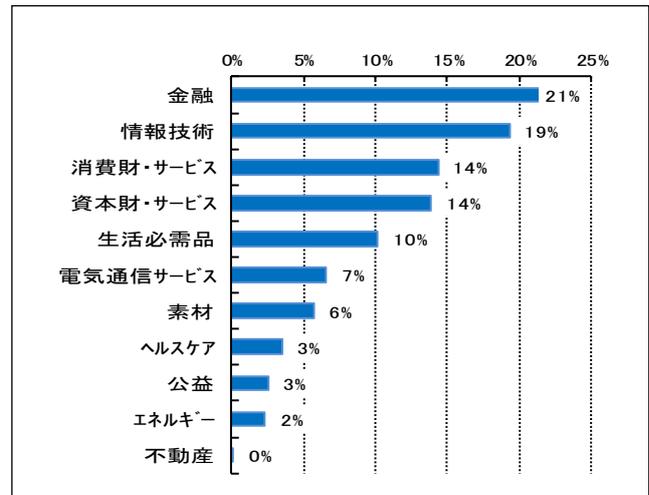
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等	主要組入F
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR	2.6%	台湾	情報技術	半導体メーカー	コムジェストF
2	CHINA MOBILE	1.8%	中国	電気通信サービス	携帯電話	コムジェストF
3	NETEASE_ADR	1.8%	中国	情報技術	オンラインゲーム	コムジェストF
4	CHINA LIFE	1.7%	中国	金融	生保	コムジェストF
5	POWER GRID OF INDIA	1.6%	インド	公益事業	電力関連(送電網)	コムジェストF
6	INFOSYS_ADR	1.2%	インド	情報技術	ITソフト総合サービス	コムジェストF
7	PING AN INSURANCE	1.2%	中国	金融	総合保険	コムジェストF
8	SAMSUNG LIFE INSURANCE	1.2%	韓国	金融	生保	コムジェストF
9	CKH	1.1%	香港	資本財・サービス	不動産・保険等の複合企業	コムジェストF
10	SANLAM LTD	1.0%	南アフリカ	金融	アフリカの保険大手	コムジェストF
11	CNH INDUSTRIAL	1.0%	イタリア	資本財	農機・建機メーカー	ハリスF
12	GLENCORE	0.9%	イギリス	素材	鉱山開発・商品取引	ハリスF
13	BNP PARIBAS	0.9%	フランス	銀行	フランス大手銀行	ハリスF
14	DAIMLER	0.9%	ドイツ	自動車・自動車部品	世界自動車大手	ハリスF
15	CREDIT SUISSE	0.9%	スイス	各種金融	スイス大手銀行	ハリスF
16	ALLIANZ	0.9%	ドイツ	保険	総合保険大手	ハリスF
17	LAFARGEHOLCIM	0.8%	スイス	素材	セメント世界一	ハリスF
18	AIG	0.8%	アメリカ	保険	総合保険大手	ハリスF
19	GENERAL MOTORS	0.8%	アメリカ	自動車・自動車部品	米ビッグ3の一角	ハリスF
20	JULIUS BAER	0.7%	スイス	各種金融	プライベートバンク	ハリスF
21	Microsoft	0.3%	アメリカ	情報技術	世界最大のコンピューターソフト	キャピタルF
22	Alphabet	0.3%	アメリカ	情報技術	グーグルの持ち株会社	キャピタルF
23	ブリヂストン	0.3%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位	さわかみF
24	Novo Nordisk	0.3%	デンマーク	ヘルスケア	医薬品バイオ	キャピタルF
25	AIA	0.3%	香港	金融	生保・金融サービス	キャピタルF
26	ASML	0.3%	オランダ	情報技術	半導体製造装置メーカー	キャピタルF
27	Visa	0.3%	アメリカ	情報技術	世界有数のクレジットカード	キャピタルF
28	トヨタ自動車	0.3%	日本	輸送用機器	自動車世界大手	さわかみF
29	日本電産	0.3%	日本	電気機器	精密モーター世界首位	さわかみF
30	CME	0.3%	アメリカ	金融	先物等の国際的取引所	キャピタルF
上位 30 銘柄		26.7%	(注)各組入F開示資料に基づくランキング			
その他 311 銘柄		48.3%				
キャッシュ		25.0%	(注)各組入Fのキャッシュを含む			

■国別構成比 (上位 20 カ国)



構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

■業種別構成比



業種：MSCI 世界産業分類基準の 11 セクター

構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

>> コメント

- ☆組入銘柄数：約 340、投資国数：21。
- ☆組入上位銘柄：投資先を絞り込み 1 銘柄当たりの比率が大きい「コムジェストF」「ハリスF」の銘柄が結果的に上位を占める。
- ☆国別構成比：米中日の経済大国がトップ3で、新興国がこれに続く。
中国以外新興国ではブラジル、インド、南アフリカなどの比率が高め。
- ☆業種別構成比：最近 6 ヶ月では、「消費財」が大きく上昇し、「情報技術」「電気通信サービス」などが低下。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

『ユニオンファンド』のリスク

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。 －

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されていないものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「価格変動リスク」、「流動性リスク」、「信用リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」などがあります。

『ユニオンファンド』の手数料等

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。 －

【申込手数料】 … お申込みにあたって弊社にお支払いいただく手数料はありません。

※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

【換金手数料】 … ご換金（解約）にあたって弊社にお支払いいただく手数料はありません。

【信託報酬】 … 純資産総額に年0.864%（税抜き 年0.8%）の率を乗じて得た額です。
毎日、当ファンドの投資信託財産より控除されます。

[*実質的な信託報酬 信託財産の純資産総額に対して年1.8%±0.3%（概算）]

※『ユニオンファンド』は他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。

【信託財産留保金】 … 信託財産留保金はありません。

【その他の費用】 … 上記のほか、次の手数料・費用等が投資信託財産より控除されます。

- ① 組入ファンドの売買の際に発生する売買委託手数料（消費税相当額等の費用を含みます。）
- ② 信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、監査法人から監査を受けるための費用（監査費用）（消費税等相当額を含みます。）

※監査費用は委託会社が一部または全部を負担することがあります。

注）お客様にご負担いただく手数料・費用等の上限額および合計額につきましては、組入ファンドの売買状況や投資信託財産の規模、またお客様の購入金額や保有期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

◆ 業務管理部よりお知らせ ◆

◆ 取引残高報告書について ◆

今回、「平成 28 年 7 月～9 月」の期間中にお取引があったお客様を対象に、郵送にてご報告しています。

※ 口座に残高があるお客様で、前回の「取引残高報告書」作成日以降お取引がない場合には、1 年毎に「取引残高報告書」にてご報告いたします。

「お取引の明細と預り金の残高明細」の見方

記載対象期間内にお取引された明細および作成基準日現在のお預り金の残高です。

※ 最後に表示される「お預り金」につきましては、“作成基準日現在”でユニオンファンドの買付が完了していない場合にはその金額が、完了している場合には「0 円」が表示されます。

「お預り証券等の残高明細」の見方

お預り証券等の残高明細(イメージ)

銘柄名	数量	評価金額合計 [a]	運用損益[a-b+c]	円
(預り区分)	基準価額	投資金額 [b]	※a,b,c 及び運用損益は全預り通算で算出	
(決算日)	評価金額	受取金額 [c]		
	取得単価	個別元本		

数量	ユニオンファンドの残高口数です。
基準価額	作成基準日(平成 28 年 9 月 30 日)現在の基準価額です。
評価金額	作成基準日現在の残高の「評価金額」です。 (「評価金額」=「数量」×「基準価額」÷10,000 で算出されます。)
取得単価・個別元本	これまでユニオンファンドを取得された価額の加重平均です。 一般口座でのお取引の場合は、「個別元本」のみが表示されます。
評価金額合計 [a]	評価金額の合計です。
投資金額 [b]	ご購入された金額の累計です。 ※ 相続等により入出庫があった場合は、入出庫分の購入金額または取得価額に相当する金額が増減されます。
受取金額 [c]	ご解約された金額及び受取分配金額の累計です。 ※ ユニオンファンドは設定来、分配金を出しておりません。
運用損益[a-b+c]	作成基準日現在の運用損益です。 「運用損益」=「評価金額合計」-「投資金額」+「受取金額」

◆ 個人番号(マイナンバー)ご提供のお願い ◆

平成 28 年 1 月から、「マイナンバー制度」が始まりました。弊社でも法定書類である各種支払調書等の作成・提出のため、口座をお持ちのすべてのお客様から個人番号(マイナンバー)をご提供いただく必要がございます。

10 月中旬から順次、制度開始前に口座を開設されマイナンバーをご提供いただいていないお客様へご提供に関するご案内をお送りさせていただきます。お手数をおかけいたしますが、お手元に届きましたら、必要書類のご提出をお願いいたします。

◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。